

1. 研究活動

＜学会発表＞			
<p>「バンバン!ケンバン!はままつ —キーボードと出会うコンサートとフォーラム 講演・シンポジウム—」 シンポジウム1「大正琴の文化史～アジアにおける大正琴の文化と変容～」</p>	<p>2012. 10. 20</p>	<p>静岡文化芸術大学 南 278 大講義室</p>	<p>日本で生まれた大正琴は、第2次大戦前には台湾、インド、インドネシアなどの海外諸国に輸出されていたが、それらがその後どのような変遷をたどってきたのかについてのシンポジウムを行った。パネリストは、梅田英春（インドネシア）、尾高暁子（台湾）、田中多佳子（インド）、金子敦子（日本）の4名。それぞれが、各自専門とする国の大正琴事情について発表を行った。1912年に大正琴が誕生してから100年の年月が経つが、大正琴は各国で生活や文化に溶け込みながら、今なお脈々と受け継がれている。</p>
＜著書（報告書）＞			
<p>『絹箏弦のインターフェイス研究』（報告書） （2012年度 貞明皇后蚕糸記念科学技術研究助成） （共著）</p>	<p>2013. 3</p>		<p>共同研究（代表者 徳丸吉彦） 今日の和弦楽器、特に箏には、一般に化学繊維の弦が広く使われている。それは、「安価で、強い」という理由からである。しかし、絹箏弦の音色が化学繊維の弦に優っていることは言うまでもなく、多くの演奏家や聴衆の認めるところでもある。大日本蚕糸会の協力を得て、2009年度から4年に渡り、弾き易く音色に優れ、破断しにくい絹箏弦を作り出す方法をテーマに研究を進めてきたが、その結果、優れた音色をもちながら、演奏中に切れることなく、また、演奏者への過度の負担を掛けることのない絹の箏弦を作り出すことに成功した。本報告書はその最終報告書である。</p>

「教科書教材楽曲の解説」 交響組曲《シェエラザード》 (リムスキー＝コルサコフ) コラール〈カンタータ 147 番から〉(バッハ)	2013. 4	『音楽鑑賞教育』季刊 Vol.9 (通巻 513 号) 公益財団法人 音楽鑑賞 振興財団 編集・発行 (東京)	小学校の音楽教科書に掲載されている鑑賞教 材についての解説。 リムスキー＝コルサコフ作曲の交響組曲 《シェエラザード》とバッハ作曲のコラール 「カンタータ 147 番から」の 2 曲に関して、 曲の成り立ち、聞きどころ、曲の魅力などに 関して解説を行っている。
< 社会活動 >			
2011 年度 子ども大正琴コ ンクール	2012. 8. 25	名古屋: ウィル愛知 ウィルホール 主催: 公益社団法人 大正 琴協会	全国の子ども大正琴愛好者を対象としたコン クールの審査員。全国より多数の幼稚園児、 小学生、中学生、高校生等が出場し、大正琴 の演奏技術を競い合った。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 ■有 □無

授業科目 音楽教育Ⅲ		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
<p>北海道から沖縄に至る 47 都道府県には、各地域に郷土色豊かな歌が存在する。各県に伝わる民謡もそのひとつであるが、風光明媚な地域をテーマにした歌、たとえば《夏の思い出》や《花》などもその中に含まれる。本授業では、戦後発行された「中学校の教科書」に基づき、「日本に伝わる郷土の歌」にはどのようなものがあるかを調査した。1 年間の調査結果は、報告書『・・・・・・』としてまとめ、全受講生に配布した。</p>		

3. 学会等および社会における主な活動

日本音楽学会	2012. 4～2013. 3	日本音楽学会中部支部支部長
--------	-----------------	---------------